

## MEGURI2040

JJ1SXA/池

現代はロボットがあらゆる分野で活躍、人間は楽をしている、そんな中で家庭で愛用される物に「自動掃除機」がある。

スカイラーグループのファミレス(ガストやバーミヤン等)で使われているのが、「猫型配膳ロボット」だ、これらは知らない人は少ないでしょう、

自動車では、問題となった高齢ドライバーの事故対策で開発されたサポカーから始まり、今や全自動運転自動車もほぼ実用化されつつある。

サポカーとは、先進安全技術でドライバーの安全運転を支援する車(セーフティ・サポートカー)で、「衝突被害軽減ブレーキ」、「ペダル踏み間違い時加速抑制装置」の2点は絶対必要です。

2021年11月29日に受付を終了したが、令和3年度中に満65歳以上となる方を対象に、「衝突被害軽減ブレーキ」や「ペダル踏み間違い急発進抑制装置」を搭載するサポカーの購入補助、後付けの「ペダル踏み間違い急発進抑制装置」導入補助のサポカー補助金制度(安全運転サポート車普及促進事業費補助金)がありました、また、「サポカー限定免許」制度も新設されました。

自動運転技術は米国自動車技術者協会(SAE)や国土交通省が自動運転レベルを、レベル0～レベル5までの6段階に区分しており、レベル5では制限なく全ての運転操作が自動化されます現在、実用化されているのは自動運転レベル2です。

「レベル3」は「条件付自動運転車(限定領域)」と呼ばれ、高速道路などの限定された領域においては自動運転システムによる自動運転が行われます、ただ、「条件付」とあるように、走行環境によりシステムが自動運転を継続できなくなった場合は、ドライバーがシステムからの要求に応え、いつでも運転に戻れなければならないという条件があります。

### 自動運転レベル

自動運転レベル1:運転支援

自動運転レベル2:部分運転自動化

自動運転レベル3:条件付き運転自動化

自動運転レベル4:高度運転自動化

自動運転レベル5:完全運転自動化

さて、ここで標題にある「MEGURI2040」です、これは、未来の海を支える「無人運航船」の実用化を目指す「日本財団 海洋事業部 海洋船舶チーム」が進める一大プロジェクトです。

コンソーシアムメンバー(2022年1月時点)

- 1.(株)日本海洋科学(代表)
- 2.(株)イコーズ
- 3.(株)ウェザーニューズ
- 4.EIZO(株)

5. (株)MTI
6. 日本電信電話(株)
7. NX海運(株)
8. (株)NTTドコモ
9. エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)
111. (株)サンフレム
12. (株)三和ドック
13. ジャパンハムワージ(株)
14. ジャパン マリンユナイテッド(株)
15. スカパーJSAT(株)
16. 鈴与海運(株)
17. 東京海上日動火災保険(株)
18. 東京計器(株)
19. ナブテスコ(株)
20. 日本郵船(株)
21. 日本シブヤード(株)
22. 日本無線(株)
23. BEMAC(株)
24. (株)pluszero
25. 古野電気(株)
26. 本田重工業(株)
27. 三浦工業(株)
28. 三井住友海上火災保険(株)
29. (株)三菱総合研究所
30. (株)YDKテク0.近海郵船(株)

日本財団会長・笹川陽平氏は次のように述べている。

…AI(人工知能)を使った無人運航が実現すれば「人や流通などのMEGURI(循環)が良くなる」「2040(令和22)年に国内の港を航海する内航船の半分を無人運航化する」の2点がプロジェクト名の由来だ。

令和2年に第1ステージがスタート、昨年1～3月には、民間企業とともに立ち上げた5つのコンソーシアム(共同事業体)と共同で、大型フェリーや小型旅客船、コンテナ船、水陸両用船を使って世界で初めてとなる既存航路での実証実験を行った。

うち大型フェリーの実証実験は、全長約220メートルのカーフェリーを使って、北九州市の新門司港と愛媛県西部の伊予灘間の往復240キロの海域で実施した。

往来する船舶との接近・衝突を避けながら時速約50キロの高速で自動操船を行ったほか、AIを活用して自動で離接岸も行い、世界から大きな注目を集めた。

現在、社会の関心は車の無人運転に集まっているが、無人運航が実現した場合の影響は車以上に大きい。日本船主協会の資料によると、世界を航行する総トン数100トン以上の船舶は約3万8千隻。うち貨物や人を運ぶ貨物船、客船、フェリーなど商船が約4万5

千隻、過半を占める。

無人運航を可能にするには、国際条約に基づく規則づくりや国内の関係法令の整備、さらに新しい運航方式に見合った保険制度の整備など重要課題が山積している。

一連の取り組みについて外国の関係者から「各国の取り組みの中で最も際立っている」といった高い評価を受けるにつれ、プロジェクトの先行きに大きな可能性を感じている。

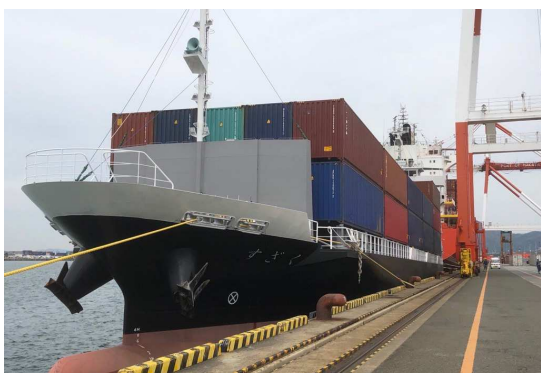
世界に通じる日本発のイノベーションに成長する姿を信じて、「民」の立場で一層、取り組みを強化する決意でいる、同時に「官」の積極的な協力も求めたく思う。…

いやはや壮大なプロジェクトだ、全長約220メートルのカーフェリーを使つての実証実験、時速約50キロの高速で自動操船を行ったほか、AIを活用して自動で離接岸も行ったというからご立派という他無い。

以前に、米ステルス戦闘機F35Bが、沖縄沖で強襲揚陸艦「ワスプ」に発着訓練のVTRを見たが、発進装置(カタパルト)無しにもかかわらず、100m強の滑走で発艦、着艦は、船体脇数m上空で停止し、空中を平行移動してから甲板上に「降下、超音速飛行が可能な戦闘機が、空中で停止することに驚きを禁じ得ない、このように、自動車も、飛行機も、船舶も自動操縦される時代になったのだ、「MEGURI2040プロジェクト」に拍手喝采だ、どんどん進化し、最終目標達成を祈る。



現在構築中の陸上支援センター



実験に用いる749GT内航コンテナ船「すざく」  
(2023年9月記)